

平和の象徴『麒麟獅子燈籠ギャラリー』

●概要 / 城下町鳥取を連想させる新機軸の観光情報発信サイン

この度制作したサインは鳥取市が『市街地サイン整備事業』策定構想の15年度実施の一環として、企図し鳥取県デザイナー協会（会長 植木誠氏）に委託し完成したものです。鳥取市が現在、中心市街地活性化事業で取り組んでいる中の「地域文化再生」、「城下町ととりの魅力PR」との相乗効果が図れる内容で開発が進められました。今回市街地情報発信サインの内智頭街道沿いに設置する街区案内サイン5基を『麒麟獅子燈籠ギャラリー』と名づけています。他に智頭橋詰めと若桜橋詰めに設置する市街地情報看板2基、お堀端沿いに設置される駐車場案内サイン1基の合わせて計8基を市街地サイン整備事業として設置しました。中でも智頭街道沿いの5箇所（片原2丁目、本町2丁目、二階町2丁目、元魚町2丁目、川端2丁目）に配置する街区案内サインは、高さ1525mm、幅430mm四方あり最上部には鳥取県伝統工芸師の山下碩夫氏の手仕事による雪白瓷の麒麟獅子と一体化した白色の屋根瓦が目をはきます。本体上部分の4面のうち1面には旧藩時代の各所幟提灯ノ印に町名をあしらった地番道路標識表示があります。他の3面には工芸品など作品展示ができる照明付の強化ガラス仕上げのギャラリースペースが収まっています。本体下部分は漆喰の壁で仕上げられ、砂丘の四季を表わした風紋の凹凸が美しい陶板が張られています。また燈籠には設置場所の町内の歴史案内や周辺の案内地図も表示されています。全体のデザインは日本の伝統的なディテールを細部にまで取り入れられ城下町ととりの景色演出の新機軸にも一役かいそような雰囲気仕上がっています。鳥取市は来年度以降も引き続き、中心市街地活性化に向けての観光情報の案内と発信の拠点サインとして役立てたいと考えています。

●コンセプト

『麒麟獅子燈籠ギャラリー』は、街頭から観光客をもてなすところ、シンボルへ。

旧鳥取藩主池田侯からその活動が始まり現在でも伝統の獅子舞が残っている因幡地方。その「麒麟獅子」をモチーフにして城下町鳥取の新しい情報の発信と市民からのおもてなしを観光客に伝えられることができる新機軸の情報案内サインが『麒麟獅子燈籠ギャラリー』です。『麒麟獅子燈籠ギャラリー』は従来からある道路標識、案内地図あるいは単一の町の情報を伝達するものではなく、初めて鳥取を訪れる人にも、生活する市民にも鳥取市の歴史や文化、民衆的な芸術など「まちの中で育まれた生活文化」を次の時代へと伝播する役割を持ち、ギャラリースペースとしての機能を有しています。案内サインの存在が設置周辺の町内会はもとより、鳥取市民一人一人の力と参画によって永続的な利活用と情報の発信拠点として育てられるよう、中心市街地活性化の推進のガイドモデルとしての可能性が期待出来る構造物でもあります。平和のシンボルである麒麟獅子を掲げる鳥取市。そして鳥取市内を訪れ、街頭を散策する多くの観光客がふっと立ち止まり、麒麟獅子燈籠の光のもとに集まった「地産市民芸術文化」にふれ、そこから市民との新たな対話や交流が生まれんことを『麒麟獅子燈籠ギャラリー』の企画に託すものであります。

『麒麟獅子燈籠ギャラリー』



W430×H1525×D430